

授業 科目名	【G】	法哲学Ⅱ	区	分	【G】3	単位数	【G】2	
	【H】	法哲学Ⅱ	選 択		【H】3		【H】2	
	【I】	法哲学Ⅱ			【I】3		【I】2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	法の概念について				担当者	松野 有		
授業概要	【概要】	法とは何か。正義とは何か。いずれも単純な問いであるが、簡潔にひとことで表現することは難しい。これらの問いに正確に答えるためには、法概念論や正義論において、これまでどのような議論が積み重ねられてきたのかを詳しく知る必要がある。本講義は、このような問題について、哲学的な考察をもって、できる限り明確な回答を付与しようとする試みである。法哲学は一般的に、法概念論、正義論、法解釈論の三分野に分けられるが、本講義では法概念論に重きを置き講義を進めていく。これまで、法がどのように捉えられてきたかについて吟味していく予定である。現代的な問題について、法哲学の見地からいかに解決へ導くことができるかについて学習することが本講義の主題である。						
	【到達目標】	法概念論についての基礎的な知識を習得することを到達目標とする。例えば、自然法論や法実証主義の内容を正確に理解するとともに、その対立構造を把握することなどである。また、哲学的な考察方法を習得することも目標となる。これらは、義務論など倫理学上の議論と重複する点も多々ある。現代的な社会問題について、法哲学的な議論ができるようになることを目標とする。						
履修条件	特になし							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連	法哲学は実定法をはじめ様々な分野の知識を横断する。また、倫理学・哲学との関連性も密接である。							
教科書	授業中に、適宜、資料を配布する。							
参考書	瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)							
評価方法	定期試験100%							
フィードバック 方法	教員が採点・評価をした答案を返却する。							
評価基準	定期試験の点数により評価を行う。90点以上の者には「S」、80点以上の者には「A」、70点以上の者には「B」、60点以上の者には「C」を与える。なお、試験欠席など、評価不能の場合には「F」とする。							

授業 科目名	【G】	法哲学Ⅱ	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【H】	法哲学Ⅱ	選 択		【H】3		【H】2
科目名	【H】	法哲学Ⅱ			【I】3		【I】2
授業回数	授業内容						
1	法の概念論とはなにか						
	予習:	なし		復習:	法概念論を学ぶ意義を復習する。		
2	自然法論と法実証主義						
	予習:	なし		復習:	伝統的な法の理解を復習する		
3	ケルゼンの純粹法学						
	予習:	なし		復習:	ケルゼンの思想内容を復習する。		
4	ハートの法概念論						
	予習:	なし		復習:	ハートの法概念論について復習する。		
5	ドゥオーキンの解釈的法理論						
	予習:	なし		復習:	ハート・ドゥオーキン論争を復習する。		
6	法の権威						
	予習:	なし		復習:	ラズの思想を復習する。		
7	法・道徳・強制						
	予習:	なし		復習:	ハート・フラー論争を復習する。		
8	法と経済						
	予習:	なし		復習:	マルクスの思想について復習する。		
9	解釈としての法						
	予習:	なし		復習:	法の意味論的理論について復習する。		
10	法的思考をめぐる論争						
	予習:	なし		復習:	サビニーの法解釈理論を復習する。		
11	AI裁判官の是非について						
	予習:	なし		復習:	AIはどこまで可能かについて思考する。		
12	死刑制度について						
	予習:	なし		復習:	問題の対立軸を復習する。		
13	民主主義の法理と受刑者の選挙権(1)						
	予習:	なし		復習:	民主主義の法理について復習する。		
14	民主主義の法理と受刑者の選挙権(2)						
	予習:	なし		復習:	現代的問題への対処法を復習する。		
15	試験実施・問題の解説						
	予習:	なし		復習:	試験問題について復習する。		
その他	法思想史の授業と関連性の深い内容を取り扱うので、講義内容に関心のある生徒は、後期の法思想史の授業の履修もすることが望ましい。						